

2023年度 第2回九大本番レベル模試(文学部) 国語 採点基準

一 (評論) 採点基準(合計 45点)

☆二の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

問1 7点

(模範解答例)

A ①〇1点 A ②〇1点

若いは それを通じて生のかなたの何ものかに向うさすらいをイメージさせ、

A ③〇1点

人は齢とともに放浪と旅に身をまかせるというふうにもいえるが、へA 3点

B 〇1点

さすらいのは肉体的、心理的にも若者の方が多いため、へB 1点

X へ対比 AとBに〇↓+1点

C 〇1点

老人が安住の家を離れて漂泊流浪する姿は珍しいから、へC 1点

Y へ総合 Cに〇↓+1点

(内容【5点】+構造【2点】=7点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「理由」を説明すべく、「老人」と「さすらい」の関係を表わすAと、「若者」と「さすらい」の関係を表わすBを比べるへ対比||比べることの構造への評価である。ここではAの要素と、Bがあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X へ対比||比べること Aの要素+B 〇1点

☆Yは、A、BをCにへ総合||まとめることする構造への評価である。ここではCがあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y へ総合||まとめること C 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「若いはそれを通じて生のかなたの何ものかに向うさすらいをイメージさせ、人は齢とともに放浪と旅に身をまかせるというふうにもいえるが、へ3点

※ 傍線部の理由説明をするための、「老人」と「さすらい」の関係を表わす条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていなければ0点。)

① 「若いは」の要素。(1点)

✕ 「若い」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「それを通じて生のかなたの何ものかに向う」をイメージさせ、「の要素。(1点)

○「それを通じて生の向こうの何かを指す」をイメージさせ、「老いを通過して生を超えた何かに向う歩み寄りのイメージを与え、」などでも可。

✖「老いを通して生の向こうの何かに向う」「さすらいのイメージ」のニュアンスの二成分が入っていないければ✖。

③「人は齢とともに放浪と旅に身をまかせるといふふうにもいえるが、」の要素。(1点)

○「人は年齢とともに行方知れぬさすらいに迷い出るといふふうにも言えるが、」「人は年経ると共に放浪と旅に迷い出るといふふうにもいえるが、」などでも可。

✖「齢とともに放浪」旅に身をまかせる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B「さすらいのは肉体的、心理的にも若者の方が多いため、」(1点)

※傍線部の理由説明をするための、「若者」と「さすらい」の関係を表わす条件。

○「さすらいのは肉体的かつ心理的にも若者の方がはるかに多いので、」「さすらいの実行では肉体と心理の条件において若者の数が老人のそれを圧倒しているため、」などでも可。

✖「さすらい」「肉体的かつ心理的に若者の方が多いため」のニュアンスの二成分が入っていないければ✖。

C「老人が安住の家を離れて漂泊流浪する姿は珍しいから、」(1点)

※傍線部の理由説明をすべく、A、Bをまとめて結論づける条件。

○「老人が安住の地を離れて漂泊流浪する姿は多くはないから。」「老人が安らかな住処を離脱してさ迷い歩く姿は珍しいから。」などでも可。

✖「老人が安住の地を離れて漂泊流浪するのは珍しい」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問2 7点

(模範解答例)

A①○1点

みずぼらしい、乞食、素性のしれぬ異邦人という

A②○1点

老いたさすらいひと見えながら、

B○1点

身なりを整えてやれば、青年、若者である場合もあつて、

→B1点

C①○1点

さすらいの辛苦が老いの外貌を甘受させていたという、

C②○1点

老人と若者の内的な関わりを見せていること。

(内容【5点】+構造【2点】=7点)

【構造点】

☆Xは傍線部を説明すべく、A「老人の複合体」「老いたさすらいひとの相」に、B「ひとつの異

質な複合体」「若者の相」が含まれているという、(矛盾)する二条件に引き裂いて行く(逆説)矛盾を含むこと(構造)への評価である。ここでは、Aの要素と条件Bがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X(逆説) Aの要素+B ○1点

☆Yは、A、BをCに(総合)まとめること(構造)への評価である。ここでは条件Cの要素があればこの構造の骨組みが成立していることとみなして1点加算。

Y(総合) Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「みすばらしい、乞食、素性の知れぬ異邦人という老いたさすらいびとと見えながら、」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、「老人の複合体」≠「老いたさすらいびとの相」を説明していく条件。

①「みすばらしい、乞食、素性の知れぬ異邦人という」の要素。（1点）

○ 「悲惨な姿の、乞食であり、素性も分からぬ異人という」「薄汚れた、乞食のような異邦人」などでも可。

× 「みすばらしい（⇒乞食のような）、異邦人」のニュアンスの成分が入っていないと×。

②「老いたさすらいびとと見えながら、」の要素。（1点）

○ 「さすらい老人のように見えながら、」「老人でありさすらいびとであるように見えるが、」などでも可。

× 「老いたさすらいびと」のニュアンスの成分が入っていないと×。

B 「身なりを整えてやれば、青年、若者である場合もあって、」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、「ひとつの異質な複合」≠「若者の相」を説明していく、Aとは〈矛盾〉する条件。

○ 「風体を整えてやれば、青年、若者というしかない場合もあって、」「外見を整えてやれば、若者の顔が現れても不思議はなく、」などでも可。

× 「身なりを整える」「青年⇒若者」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「さすらいの辛苦が老いの外貌を甘受させていたという、老人と若者の内的な関わりを見せていること。」

〈2点〉

※ A、Bをまとめて結論づける条件。

①「さすらいの辛苦が老いの外貌を甘受させていたという、」の要素。（1点）

○ 「さすらいの苦労が外見を老人そのものたらしめていたという」「さすらいの苦難が老いの相貌を帯びさせていたという」などでも可。

× 「さすらいの辛苦」「老いの外貌の甘受」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「老人と若者の内的な関わりを見せていること。」の要素。（1点）

○ 「老人と若者が内的に関わっているのを証していること。」「老人と若者の内的なつながりを表わしていること。」などでも可。

× 「老人と若者の内的な関わり」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A ①〇1点

A ②〇1点

ドイツの教養小説では、老隠者と若者の交流がよく描かれるが、〈A 2点〉

B 〇1点

若者は老隠者から学問・知識・技術を得るのみならず、〈B 1点〉

C 〇1点

「若い」の相も目に灼きつけておくという、〈C 1点〉

X 〈分析〉ABCのうち二種二つ以上の要素に〇↓+1点

D ①〇1点

D ②〇1点

精神的結合・対偶的複合関係を背後に持ち、それがさすらいの疲弊のはてに表れること。〈D 2点〉

Y 〈総合〉Dに〇↓+1点

(内容【6点】+構造【2点】=8点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、話題のAを、(not only~but also)の構文を構成する(矛盾)しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉する構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、条件C〉内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立している」とみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、B、C〉内の二種二つ以上 〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dの要素が一つ以上あればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「ドイツの教養小説では、老隠者と若者の交流がよく描かれるが、」〈2点〉

※傍線部を説明するための話題の条件。

① 「ドイツの教養小説では、」の要素。(1点)

✕ 「ドイツの教養小説」のニュアンスの成分が入っていないならば✕。

② 「老隠者と若者の交流がよく描かれるが、」の要素。

○ 「若者と向き合う老隠者の組み合わせがよく表現されるが、」「さすらい若者と老隠者のやりとりが登場することが多いのだが、」などでも可。

✕ 「老隠者と若者の交流」の成分が入っていないならば✕。

B 「若者は老隠者から学問・知識・技術を得るのみならず、」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く〈not only〉の条件。

○ 「老隠者から若者は学問・知識などを受けとるだけでなく、」「若者は老隠者より知識・技術などを習得するとともに」などでも可。

✕ 「老隠者↓若者」「学問(or知識 or 技術)などを得る」のニュアンスの成分が入っていないならば✕。

C 『若い』の相も目に灼きつけておくという、「〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く〈but also〉の条件。

○ 『若い』相貌も心に刻んでおくという「『若い』の姿も忘れずに記憶しておくという」などでも可。

✕ 『若い』の相も目に灼きつける」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。「若い」のみでは不可✕。

D 「精神的結合・対偶的複合関係を背後に持ち、それがさすらいの疲弊のはてに表れること。」〈2点〉

① 「精神的結合・対偶的複合関係を背後に持ち、」の要素。(1点)

○ 「精神的結合・対偶的複合関係を背景として、」「精神的なつながり・対偶的な絡み合う関係を背後に持って、」などでも可。

✕ 「精神的結合・対偶的複合関係」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「それがさすらいの疲弊のはてに表れること。」の要素。(1点)

○ 「それがさすらいの辛苦の末に表出すること。」「それらがさすらいの苦難の果てに露出すること。」などでも可。

✕ 「さすらいの疲弊の果ての表出」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問4 8点

(模範解答例)

A ○1点

さすらいは 〈A 1点〉

B ○1点

申し分ない肉体と精神をもった若者も 〈B 1点〉

C ○1点

若いを直接経験しなければならず、 さすらいの苦勞の累積が若者を老人にみせてしまうが 〈C 2点〉

X 〈逆説〉ABCのうち、2種以上に○⇩1点

D ○1点

そこでは若いこそが 若いと若さの対偶性、さらにはそれを超えた相互性、共属性を導いていること。 〈D 2点〉

Y 〈総合〉Dに○⇩1点

(内容)【6点】+構造【2点】=8点

【構造点】

☆ Xは、傍線部の説明をすべく、話題のAを〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析⇨分けること〉として説明する構造への評価である。向きが反対である所に〈矛盾〉をみて〈逆説⇨矛盾を含むこと〉と解釈することもある。ここでは、条件A、B、Cの内二つがあればこの構造が暗黙裡に構想されるとみなして1点加算。

X 〈分析⇨分けること〉 〈A、B、Cの内二つ以上〉 ○1点

・ Yは、B、CをDにまとめて結論づける〈総合⇨まとめること〉の構造への評価である。ここでは条件Dの要素が一つ以上あればこの構造が暗黙裡に構想されたとみなして1点加算。

Y 〈総合⇨まとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

〈A 「さすらいでは」へ1点〉

※傍線部の『「老い』』にしか許されないような秘儀」を説明するため話題の条件。

※「さすらい」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「申し分ない肉体と精神をもった若者も、」へ1点

※傍線部の『「老い』』にしか許されないような秘儀」を説明すべく、話題のAを説明して行く一方の条件。

○「申し分ない肉体と精神を授かって生まれてきた若者も、」欠点の見当たらない肉体と精神を備えた若者も、」などでも可。「肉体」と「精神」両方が必要。

※「申し分ない肉体と精神をもった若者」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「老いを直接経験しなければならず、さすらいの苦労の累積が若者を老人にみせてしまうが、」へ2点

※傍線部の『「老い』』にしか許されないような秘儀」を説明すべく、話題のAを説明して行く、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

①「老いを直接経験しなければならず、」の要素。(1点)

○「老いを直接に経験せざるをえず、」老いを奪取しなければならず、」などでも可。

※「老いの直接経験」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「さすらいの苦労の累積が若者を老人にみせてしまうが、」の要素。(1点)

○「さすらいの辛苦の蓄積が若者に老人の外観を与えてしまうが、」さすらい困難の積み重ねが若者を老人であるかのように見せてしまうが、」などでも可

※「さすらいの苦労の累積」「若者を老人にみせてしまう」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D「そこでは老いこそが老いと若さの対偶性、さらにそれを超えた相互性、共属性を導いていること。」へ2点

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

①「そこでは老いこそが」の要素。(1点)

○「そこではまさに老いが」「そこでは他でもない老いが」などでも可。

※「老い(こそ)が」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「老いと若さの対偶性、さらにそれを超えた相互性、共属性を導いていること。」の要素。(1点)

○「老いと若さの対偶性、さらにそれを超越した相互性、共属性をもたらしていること。」「老いと若さの対偶性、そしてそれを超え出た相互性、共属性を示唆していること。」などでも可

※「老いと若さの対偶性↓相互性⇄共属性」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点

老いた人間は 若い人間を呼び寄せようとしたり、若い頃のさすらいを回想し、その姿を後継者に物語ったり

A③〇1点

するが、それはもう一度『若さ』に近づぐことであり、〈A3点〉

B①〇1点 B②〇1点

反対に「若さ」は 艱難を刻みつけられた「若い」の肌ざわりを引き受けて、〈B2点〉

C①〇1点 C②〇1点

交換、交替による 生の獲得を達成するという意味。〈C2点〉

X〈弁証法〉Cに〇↓+1点

(内容【7点】+構造【1点】=8点)

【構造点】

☆Xは、「老いた人間↓若い人間」の接近を表わす条件Aと、『若さ』↓『若い』の接近を表わす条件Bを、いわば〈衝突≠矛盾〉を孕む二契機として、Cへの〈止揚〉を果たす〈弁証法≡創造すること〉の構造への評価である。これが傍線部を説明する構造である。ここでは、Cの要素があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているものとみなして1点加算。

X〈弁証法≡創造すること〉 Cの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「老いた人間は若い人間を呼び寄せようとしたり、若い頃のさすらいを回想し、その姿を後継者に物語ったりするが、それはもう一度『若さ』に近づぐことであり、」〈3点〉

※傍線部を説明するための〈弁証法≡創造すること〉の一方の契機となる条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていない場合は0点。)

①「老いた人間は」の要素。(1点)

× 「老いた人間」のニュアンスの成分が入っていない場合は×。

②「若い人間を呼び寄せようとしたり、若い頃のさすらいを回想し、その姿を後継者に物語ったりするが、」の要素。(1点)

○ 「若い人間をあの手この手で誘ったり、かつての自分のさすらい回想し、その姿を招き寄せた後継者に聞かせたりするが、」「若者を招き寄せようとしたり、自分が若い肉体として経験したさすらいを想起し、その様態を若者に物語ったりするが、」などでも可。

× 「若い人間を呼び寄せる」「若い頃のさすらいを回想」「後継者に物語る」のニュアンスの三成分全てが入っていない場合は×。

③「それはもう一度『若さ』に近づぐことであり、」の要素。(1点)

○ 「それはもう一度『若さ』に接近することであり、」「それは『若さ』に再接近することであり、」などでも可。

× 「もう一度『若さ』に近づぐ」のニュアンスの成分が入っていない場合は×。

B 「反対に『若さ』は艱難を刻みつけられた『古い』の肌ざわりを引き受けて、」〈2点〉

※傍線部を説明するための〈弁証法⇨創造すること〉の、Aとは〈衝突⇨矛盾〉する他方の契機となる条件。

① 「反対に『若さ』は」の要素。(1点)

○ 「逆に『若さ』は」「反対に若い人は」などでも可。

✖ 『若さ』のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「艱難を刻みつけられた『古い』の肌ざわりを引き受けて、」の要素。(1点)

○ 「辛苦を刻印された『古い』の感触を引き受けて、」「苦難の塗り込められた『古い』の肌ざわりを身に帯びて、」などでも可。

✖ 「艱難の刻印」「古い」の肌ざわりを引き受ける」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「交換、交代による生の獲得を達成するという意味。」〈2点〉

※A、B二契機を〈止揚〉して到達した次元の条件。

① 「交換、交代による」の要素。(1点)

○ 「交換、交代を通した」「交代による」などでも可。

✖ 「交換⇨交代」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「生の獲得を達成するという意味。」の要素。(1点)

○ 「生の獲得に向うという意味。」「生の獲得ないしは再獲得に至るという意味。」などでも可。

✖ 「生の獲得の達成」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問6 7点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

『青い花』の中で、

主人公ハイインリヒが夢に見た青い花は、父が若い頃夢で見たのと同じものと判明し、

A③○1点

A④○1点

父の昔の夢の話聞いた後に、若者ハイインリヒは父に祝福されて、それを探す旅に出るのだが、〈A 4点〉

B①○1点

B②○1点

それは夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる 生を獲得するために必要であった。〈B 2点〉

X 〈分析〉 AとBに○⇨+1点 (7点)

(内容【6点】+構造【1点】⇨7点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「共属性」が「何のために必要とされていたか」を説明すべく、Aの「共属性」とBの「目的(⇨何のために必要とされていたか)」の〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二条件に〈分析⇨分けること〉する構造への評価である。ここではA、

Bの要素がそれぞれ二つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈分析⇨分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「青い花」の中で、主人公ハインリヒが夢に見た青い花は、父が若い頃夢で見たのと同じものと判明し、父の昔の夢の話を聞いた後に、若者ハインリヒは父に祝福されて、それを探す旅に出るのだが、「(4点)

※傍線部の「共属性」が「何のために必要とされていたか」を説明するための「共属性」の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点(3要素以上があれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。)

①「青い花」の中で、「の要素。(1点)

×「青い花」の成分が入っていないければ×。

②「主人公ハインリヒが夢に見た青い花は、父が若い頃夢で見たのと同じものと判明し、」の要素。(1点)

○「主人公ハインリヒの夢に現れた青い花は、父が若い頃奇妙な夢で見たのと同じものらしいと判明し、」
「主人公ハインリヒの奇妙な夢の中に現れた青い花は父が若年時に夢で見たのと同じ花らしいと分かり、」などでも可。

×「主人公ハインリヒが夢に見た青い花」「父が(若い頃)夢で見たのと同じものと判明」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「父の昔の夢の話を聞いた後に、「の要素。(1点)

○「父から次々に昔の夢の話を詳しく聞いた後に、「父から昔の夢ことを詳しく語ってもらった後に、「などでも可。

×「父の昔の夢の話を聞いた後」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④「若者ハインリヒは父に祝福されて、それを探す旅に出るのだが、「の要素。(1点)

○「若者ハインリヒは父に励まされて、『青い花』を尋ねあてる旅に出るのだが、「若者ハインリヒは父による祝福を受けて、それを求める旅に出発するのだが、「などでも可。

×「若者ハインリヒは父に祝福されて」「それ(＝「青い花」)を探す旅に出る」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「それは夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる生を獲得するために必要であった。」(2点)

※ 傍線部の「共属性」が「何のために必要とされていたか」を説明するための、A(＝「共属性」)の「目的」の条件。

①「それは夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる」の要素。(1点)

○「それは夢の中で『老い』のかたわらを通り過ぎてようやく到達できる」「それは夢の中で未知の翁とのかかわりを通して達することができる」などでも可。

×「夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「生を獲得するために必要であった。」の要素。(1点)

○「生の獲得のために必要であった。」「生の再獲得のために不可欠であった。」などでも可。

×「生を獲得するために必要」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

二 (古文) 採点基準 (文Ⅱ30点)

問1 各2点✖4＝8点

「傍線部①」「やは」「てふ意にて」の現代語訳。

A○1点 B○1点

(解答例) 「やは」という 反語の意味であって、【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「やは」という (1点)

※ 「やは」「てふ」の解釈

○ 「てふ」が「〜という」の解釈になっていること。

B 「反語の意味であって」「 (1点)

※ 「てふ意にて」の解釈。

○ 「意」が「反語」であることが明確なこと。「意味」のみは✖不可。

○ 「にて」が「〜で(あって)」と解釈してあること。完答。

「傍線部②」「身ながらの意にて」の現代語訳。

A○1点 B○1点

(解答例) 自分の身のままであるのに という意味であって 【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「自分の身のままであるのに」 (1点)

※ 「身ながらの」の解釈

○ 「身ながら」が「自分の身が昔と同じであるのに」のように逆接で訳してあること。

B 「という意味であって」 (1点)

※ 「意にて」の解釈

○ 「の意にて」が「〜の意味であって」と断定の解釈になっていること。

〔傍線部③〕「これにてよく聞こえたるものをや」の現代語訳。

A〇1点

B〇1点

(解答例) 深養父の句(と照らし合わせる)こと(と)によつて 「月やあらぬ」の歌がよく理解できるのではない
いか。 【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「深養父の句(と照らし合わせる)こと(と)によつて」(1点)

※「これにて」の解釈

○「これ」が「深養父の歌」であることが明示されていること。

B 「月やあらぬ」の歌がよく理解できるのではないか」(1点)

※「よく聞こえたるものをや」の解釈。

○「月やあらぬ」の歌(在原業平の歌)の意味が理解できる、という内容になっていること。

〔傍線部④〕「在り所は聞きけれど、えものも言わで」の現代語訳。

A〇1点

B〇1点

(解答例) その女の居場所は知っていたが、 手紙をやることができなかった 【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「その女の居場所は知っていたが」(1点)

※「手紙をやることができなかった」の解釈

○「在り所」が「女」の居場所(居所)と訳してあること。「女」は「高子」でもよい。

B 「手紙をやることができなかった」(1点)

※「えものも言わで」の解釈。

○不可能の解釈になっていること。「言うことができなかった」も可とする。

問2 4点

A〇2点

B〇1点

(解答) マ行四段活用動詞「よむ」已然形 十完了の助動詞「り」連体形

C〇1点

十断定の助動詞「なり」終止形

※ABC内は完答のみ。

問3 4点

※「昔のやうにもあらぬことよ」とは何がどのようなようであると述べているのかを本文に即して説明する。

A〇2点

B〇1点

C〇1点

(解答例) 今の自分の境遇が愛する人と逢っていた時とは まったく異なっている と述べている。【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A「今の自分の境遇が愛する人と逢っていた時とは」(2点)

※「何が」の説明。

○歌を詠む現在の自分の境遇と愛する女と交際していた以前の境遇との比較になっていること。

B「まったく異なっている」(1点)

※「どのようなようである」の説明。

○状況が全く違う、という説明

C「と述べている」(1点)

※文末処理。

※A・Bに得点がない場合、これだけでは得点できない。

○「ということ」などでも可。

問4 4点

※「かかるをいへるなるべし」について本文の内容に即して説明する。

A〇1点

B〇2点

(解答例) 在原業平の歌は意趣が捉えにくく、 他の箇所と照らし合わせたり、 言葉を補ったりすること

C〇1点

よりよく理解できるといふこと。

【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A「在原業平の歌は意趣が捉えにくく」(1点)

※業平の歌は内容が把握しづらい、という内容。

○「言葉足らずになって(いてわかりにくい)」という表現でも可とする。

B「他の箇所と照らし合わせたり、言葉を補ったりすること」(2点)

※他の箇所と対比＋言葉の補足。

C 「ようやく理解できるといふこと。」(1点)

※文末処理。

※ A Bに得点が無い場合、ここだけでは得点できない。

問5 4点

(解答) (2) ↓ (3) ↓ (4) ↓ (5) ↓ (1) ※完答のみ

問6 6点

※ 「月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして」を本文の内容に即して現代語訳する。

A ○3点

(解答例)

月は愛する人と交際していた以前と違う月ではないだろうか、いや同じ月であろう。春も同じ春

B ○3点

ではないのだろうか、いや同じ春であろう。この我が身のみが元の身のみで、愛する人と逢って

いた以前の境遇とはまったく異なっていてしまっているのだ。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「月は愛する人と交際していた以前と違う月ではないだろうか、いや同じ月であろう。春も同じ春ではないのだろうか、いや同じ春であろう。」(3点)

※ 「月やあらぬ春や昔の春ならぬ」の現代語訳。

○ 解答例のように「くだらうか、いや」とするか、「月」も「春」も何もかわりはしない、のように**両語表現がしっかりと解釈されていること**。

△内容的に間違っていないが、反語表現として解釈されていると取れない場合は、▲2点減点で△1点。

B 「この我が身のみが元の身のみで、愛する人と逢っていた以前の境遇とはまったく異なっていてしまっているのだ。」(3点)

※ 「わが身ひとつはもとの身にして」の現代語訳。

○ 「自分自身だけが愛する人と交際していた時のように見えるが、当時とはまったく境遇が異なっていてしまっている」、という解釈がなされていること。

※ 単に「私は変わってしまった」のように、何が変わったのかがわからない答案は不可※。

三 (古文) 採点基準 (30点)

問1 各3点✖3＝9点

「傍線部①」「内にも御遊びあるべかりけれど」の現代語訳。

(模範解答例) A○1点 B○1点 C○1点
宮中でも 詩歌管弦の催しが あるはずであったが、【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「宮中でも」(1点)

※ 「内にも御」の現代語訳

○ 「内裏においてでも」でも可○。

B 「詩歌管弦の催しが」(1点)

※ 「御遊び」の現代語訳

○ 「管弦(の催し)」でも可○。

C 「あるはずであったが」(1点)

※ 「あるべかりけれど」の現代語訳

○ 当然(予定)の意(はずだ・予定だ)＋過去＋逆接。完答。

「傍線部②」「おどろき給へれば、あかつき方になりにけり」の現代語訳。

A○1点 B○1点 C○1点
(模範解答例) お目覚めになったところ、夜明け前頃に なってしまった。【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「お目覚めになったところ」(1点)

※ 「おどろき給へれば」の現代語訳。

○ 尊敬の補助動詞「おくになる」＋目が覚める＋「くたところ」という接続助詞「ば」の偶然の用法。完答。

✖ 「目が覚めたところ」など、敬意がないものは不可✖。

B 「夜明け前頃に」(1点)

※ 「あかつき方に」の現代語訳。

○ 「夜明け前くらい時刻」という解釈。

✖ 夜が明けてしまっているのは不可✖。

C「なってしまった。」(1点)

※「あかつき方に」の現代語訳。

○「成る」+完了の意。

✖ A Bに得点がなく、この箇所のみ正解では加点無し。

「傍線部③」「わざと弾かむと思はぬに」の現代語訳。

A○2点 B○1点

(模範解答例)

わざと 弾こうとは思わないのに【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A「わざわざ」(2点)

※「わざと」の現代語訳

○「わざわざ」と解釈してあること。

✖「わざと」「故意に」などは✖。

B「弾こうとは思わないのに」(1点)

※「弾かむと思はぬに」の現代語訳。

○意志+打消+逆接の解釈になっていること。 完答。

問2 4点

※「その音いふかぎりなく、そこらの年を経て弾きしみたるよりも、澄みたる音を弾き増し給へる」が具体的にどのような様子を表している説明する。

(模範解答例)

A○1点

B○2点

C○1点

中の君の弾く箏の琴の腕前が、長年の研鑽によって身につけた人より素晴らしく澄んで聞こえると

【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A「中の君の弾く箏の琴の腕前が」(1点)

※「何が」の具体的な説明。

○「中の君の琴の技法」でも可○。

B「長年の研鑽によって身につけた人より素晴らしく澄んで聞こえる」(2点)

※「どのよう」であるかの具体的な説明。

○「研鑽のために他者よりもすばらしく聞こえる」という内容。

✖単に「素晴らしい」だけでは不可✖。比較が必要。

C 「とということ」(1点)

※文末処理。

○ 「と」という様子」でも可。

※ ABに得点が無く、この箇所のみ正解では加点無し。

問3 2点

(解答) こそ

問4 1点※2||2点

(解答) X(1) Y(2)

問5 5点

※ 「小姫君の御夢に」の「御夢」とは、誰のどのような内容の夢のことか具体的に説明する。

(解答例)

A ○1点 B ○2点

C ○2点

中の君の、中国の絵画に描かれているような美しい女がやってきて琵琶の秘曲を伝授し、まだ教えていない

(A後半)

曲はまた来年の今夜に改めて教えようと言っていないなくなった という夢。

【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「中の君の…という夢」(1点)

※ 「誰の夢か」の説明。

○ 中の君の夢であることが示されていること。

※ BCに得点が無く、この箇所のみ正解では加点無し。

B 「中国の絵画に描かれているような美しい女がやってきて琵琶の秘曲を伝授し」(4点)

※ どのような内容か(その1)

○ 「夢に現れた美女から琵琶の秘曲を伝授された」という内容であること。

C 「まだ教えていない曲はまた来年の今夜に改めて教えようと言っていないなくなった」(4点)

※ どのような内容か(その2)

○ 「教えていない曲は来年の今夜に教えようと約束した」という内容であること。

問6 4点

※「いとうれしと思ひて、あまたの手を、片時の間に弾きとりつ」を、現代語訳する。

(模範解答例)

A ○1点

B ○2点

C ○1点

中の君はたいそううれしく思い、たくさんの琵琶の秘曲を わずかの時間で習得してしまった。 【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「中の君はたいそううれしく思い」(1点)

※ 「いとうれしと思ひて」の現代語訳。

○ 「中の君」が主語となっていること。

B 「たくさんの琵琶の秘曲を」(2点)

※ 「あまたの手を」の現代語訳。

○ 「あまた」が「たくさん」、「手」が「曲」と訳してあること。

C 「わずかの時間で習得してしまった」(1点)

※ 「片時の間に弾きとりつ」

○ 「一瞬でマスターした」、という内容になっていること。

問7 4点

※「あさみおどろき給ひつれど」は誰のどのような心情を表しているか理由も含めて説明する。

(模範解答例)

A ○1点

B ○2点

C ○1点

父の大臣の、琵琶を習ったことのないはずの中の君が見事に弾きこなすのを聞いて驚きあきれれる心情。

【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「父の大臣の」(1点)

※ 「誰の」の説明。

○ 「父の」は無くても「大臣」だけでもよい。

※ B C に得点が無い場合、A だけでは得点できない。

B 「琵琶を習ったことのないはずの中の君が見事に弾きこなすのを(聞いて)」(2点)

※ 「心情」にいたる内容の説明。

○ 「聞いたことのない琵琶を中の君が弾きこなす」という内容であること。

C 「驚きあきれる心情」(1点)

※ 「どのような心情」かの説明。

○ 「意外に感じる(驚く)」+「あきれる」。完答。

〔四〕(漢文) 採点基準 (合計 45点)

問1 各2点★5 10点

(解答) ㉔ もうす／まうす

㉕ ここにおいて

㉖ はなはだしいかな／はなはだしきかな

㉗ あえて／あへて

㉘ いわんや／いはんや

○現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらでも可。

○㉔は「…しいかな」「…しきかな」、どちらでも可。

問2 各3点★2 6点

(解答)

① 旧友

○古くからつきあいのある友人「旧友」「親友」「昔なじみ」「古なじみ」などでも○。

③ 機会

○きっかけ「よいおり」「折り」「チャンス」「適切なとき」「時機」などでも○。

問3 4点

A ○2点

B ○2点

(解答) いやしくもろんせつ(する)〔こと〕(ある) ある をがへんぜず

☆各加点要素の加点の条件

※A↓Bの順序になっていない場合は全体として加点なし0点。

○句点「。」の有無は不問。

A 「を」がしくもろんせつ(する)〔こと〕(ある) (2点)

○「苟」は「いやしくも」「かりそめに」も「どちらでも可」。

○「論説」は「ろんせつ」「ろんせつする」「ろんせつする〔こと〕」いずれも可○。

B 「をがへんぜず」(2点)

○「をがへんぜず」「をがえんぜず」どちらも可。

問4 6点

※「見元賓之所与者、則如元賓焉。」を、「如元賓」の主語を補って、わかりやすく解釈する。

A○2点

B○2点 C○2点

(解答例) 元賓が交際してきた人たちと 会えば、 その人たちはみな元賓のようです。

【6点】

☆各加点要素の加点の条件

※A↓B↓Cの順序になっていない場合は全体として※0点。

A 「元賓が交際してきた人たちと」(2点)

※ 「元賓の与する所の者を」の解釈

○ 「元賓が交際してきた人」「元賓の友人」「元賓の仲間」などと解釈していること。

B 「会えば」(2点)

※ 「見れば」の解釈

○ 「会えば」「会うと」「会ってみると」「会った場合」などと解釈していること。

※ 「見」は「会う」など。

※ 「則」を踏まえて仮定・条件の要素が必須。

C 「その人たちはみな元賓のようです」(2点)

※ 「則ち元賓のごとし」の解釈。

○ 「その人たちは元賓のようだ」「彼らは元賓と同じような人たちである」などと解釈していること。

問5 8点

※ 「読其文辞、見元賓之知人、交道之不汚。」とはどういうことか、本文全体を踏まえて80字以内で説明する。

A○2点

B○2点

C○2点

D○2点

で、李観の人を見る目は確かで 交際も清らかだったことがわかるということ。 【8点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「他人に厳しい李観が李秀才を称賛する詩を作ったが」(2点)

○ 「他人に厳しい(心が狭い)狭量な凡人を認めない」元賓が李秀才を(詩の中で)称賛していた(褒めたたえていた)に触れていれば○。

B 「李秀才の文章を読むとその称賛に値するもので」(2点)

○ 「李秀才の文章を読むと、実際に優れた人物(才能豊かな人物/非凡な人物)だった」に触れていれば○。

C 「李観の人を見る目は確かだ」(2点)

○ 「そこから元賓が人を理解できている(人を見る目がある/人の能力を正しく見抜ける)ことがわかる」に触れていれば○。

D 「交際も清らかだったことがわかるということ」(2点)

○ 「交際に汚れない(交際が清い/交友関係が潔癖な/友人と馴れ合っていない)ことがわかった」に触れていれば○。

問6 4点✖2=8点

(1) 4点

※ 「将復有深於是者」に返り点を付ける。

(解答) 将下復有中深二於是**一**者上 【4点】

(2) 4点

※ 「将復有深於是者」をわかりやすく解釈する。

A ○2点

B ○2点

A後半○

(模範解答) 将来、

さらにこれよりも奥深いものを生み出せる

でしよう。

【4点】

☆各加点要素の加点の条件

✖A↓Bの順序になっていない場合は全体として加点なし。

○読点「、」句点「。」の有無は不問

A 「将来、…でしよう」(2点)

※ 「将(将に〜んとす)」の現代語訳

○ 「将(まさに…んとす)」を「これから…だろう」「将来…だろう」などと解釈していること。

✖ 「今にも…しそうだ」「…するところだ」「…しようとしている」などは不可✖。

B 「さらにこれよりも奥深いものを生み出せる」(2点)

※ 「将(将に〜んとす)」の現代語訳

○ 「この文章よりも深いものが生まれる」「この作品よりもっとよいものを作る」などと解釈できていること。

○ 比較の句形「…よりも―」を踏まえて訳していること。

○ 「是」は「これ」のままでも可。

問7 1点✖3＝3点

(1) 1点✖3＝3点

(ア) (ウ) (コ)

☆各加点要素の加点の条件

○正解一つにつき1点を与える。

▲不正解一つにつき1点減点する。

※ () の有無は問わない。